

【資料について】

本資料は、中学3年生が書いた人権作文である。日本人の両親をもち、アメリカ（サンディエゴ）で生まれ、10歳半まで地元の保育園、幼稚園、小学校に通った筆者「僕」は、「リスペクト アザース」を根本的な考え方として育つ。多国籍民族で構成されるアメリカは、有色人種に対する差別、白人至上主義など人権問題があり、人権に関わる感覚を研ぎ澄ませなければならない社会である。日本に帰国し、小学校に通い始めると、アメリカとの考え方の違いに戸惑う。日本人にとって「リスペクト アザース」のもつ意味とは・・・？

「人権尊重の社会を作っていくのは、僕たちひとりひとりの考え方による」と言った「僕」は、どんな思いでそう言っているのだろう。

差別が無くなって、みんな笑顔で生きていってほしい。

ひとりひとりが違う意見を持っているから、その意見が組み合わさると、今よりもっとすばらしい社会になるはず。

全員が尊重しようと思わなければ、人権尊重の社会はつukれない。



アメリカのように、相手のどんなことでも尊重できるような世界になってほしい。

お互いを尊重し合うことで、世界から差別がなくなっほしい。

世界全体が平等になってほしい。差別のない社会になってほしい。自分たちから変わらないと、差別はなくなるらない。

差別や偏見を持つてしまう原因として、どのようなことが考えられるか。

- ・自分と違う面に目がいき、変だと思ってしまう ・相手の悪いところしか見えていない
- ・相手に苦手意識を持つてしまっている ・尊重する気持ちや思いやりの気持ちが足りない
- ・視野が狭い ・周りの人と比べてしまっよう ・良くない仲間を作りたがるから
- ・他人の悪口を言うことで、他人を下に、自分を上に見ている ・自分勝手な考え方だから
- ・相手のことを受け入れる気持ちが足りない ・噂話を真に受けっている、噂話を広げる